

「地震応答解析における耐震壁のせん断スケルトンカーブの設定」  
に関する基本ロジック（耐震建物 09）

○本資料は、当社事業所内の建物・構築物の地震応答解析において共通して設定している鉄筋コンクリート造耐震壁（以下、「RC 造耐震壁」という。）のせん断スケルトンカーブの設定方法及び設定根拠を示すことで、各建物・構築物の地震応答解析モデルが適切に設定されていることを説明するものである。

○具体的には、以下①～③を示すことで、各建物・構築物の地震応答解析モデルが適切に設定されていることを説明している。

①：RC 造耐震壁のせん断応力度－せん断ひずみ度関係（ $\tau$ - $\gamma$  関係）は、「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG 4601-1991 追補版（(社)日本電気協会）」（以下、「JEAG 4601-1991 追補版」という。）に基づき、トリリニア型スケルトンカーブとして設定していること。

②：せん断スケルトンカーブの各折点（第1折点、第2折点及び終局点）については、以下のとおり設定していること。

<第1折点及び第2折点>

「JEAG 4601-1991 追補版」に基づき設定。

<終局点>

外壁部：「JEAG 4601-1991 追補版」に基づき設定。

内壁部：先行する発電炉（柏崎刈羽原子力発電所7号機）で審査実績のある、「2007年版 建築物の構造関係技術基準解説書（国土交通省，他監修）」に基づき設定。

③：各建屋のせん断スケルトンカーブの設定根拠となる建屋諸元等の詳細データ。

以上